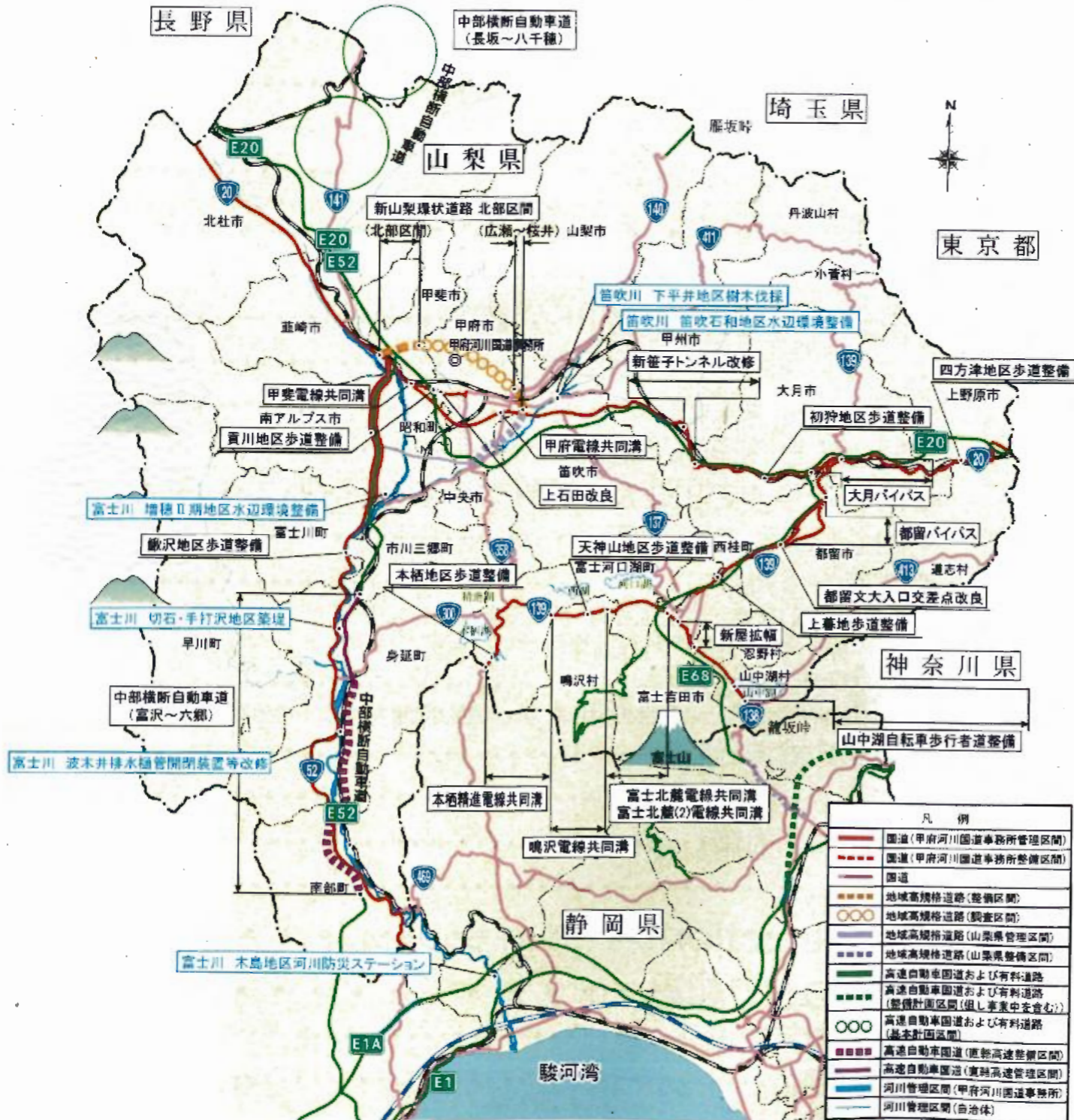


甲府河川国道事務所の概要

当事務所は、災害に強く、誰もが安心して暮らすことができる活力と魅力に満ちた国土づくりを目指し、河川事業及び道路事業を実施しています。

河川事業では、富士川、釜無川及び笛吹川等の計約122kmの維持管理、浸水被害解消のための築堤護岸等の整備や河川防災ステーションの整備、環境整備等を行っています。

また、道路事業では、国道20号、52号、138号、139号、中部横断自動車道の5路線、計約248kmの維持管理、広域ネットワークを形成する中部横断自動車道(富沢～六郷)の整備、道路拡幅やバイパスの整備、防災対策、交通安全対策等を行っています。



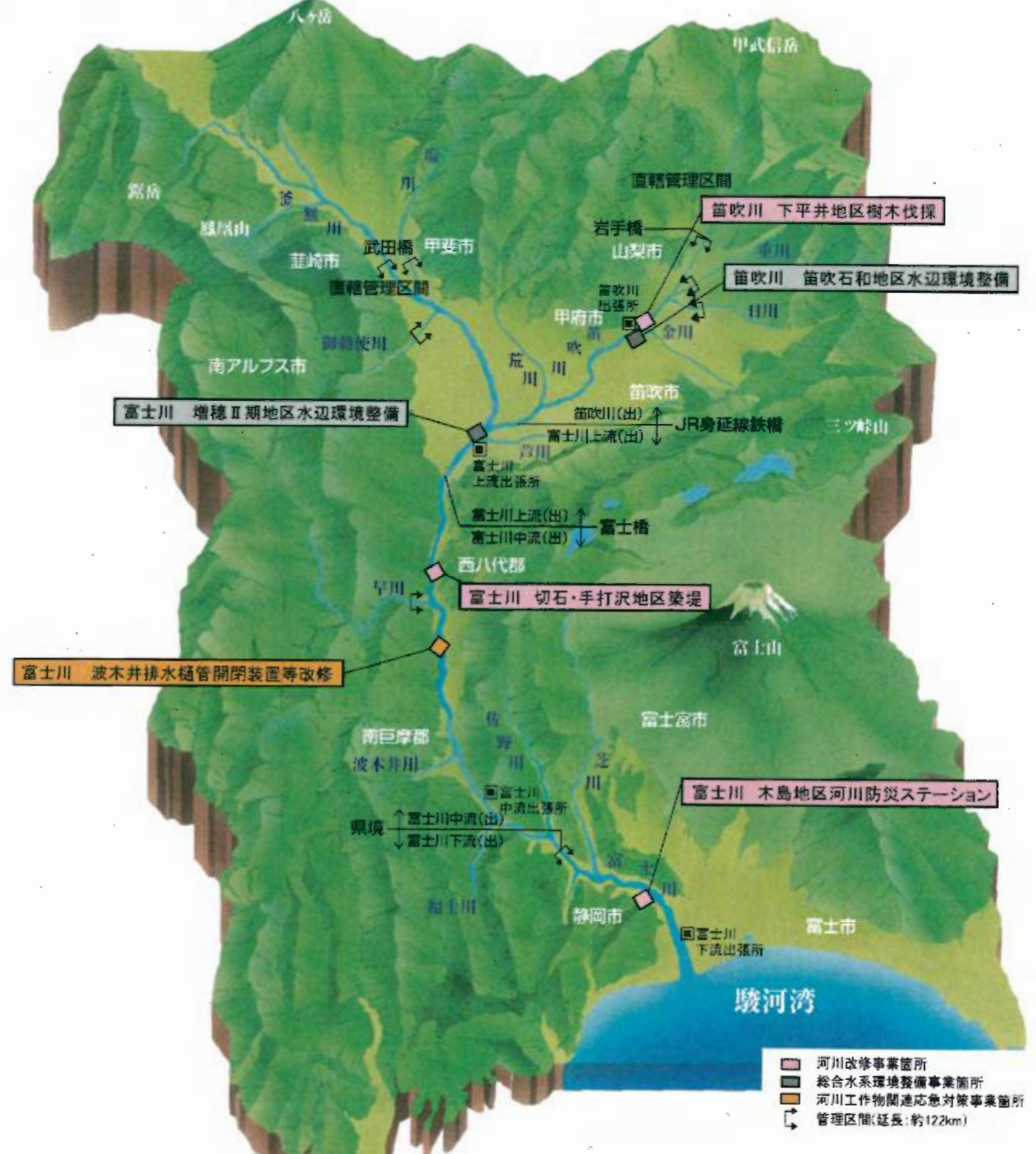
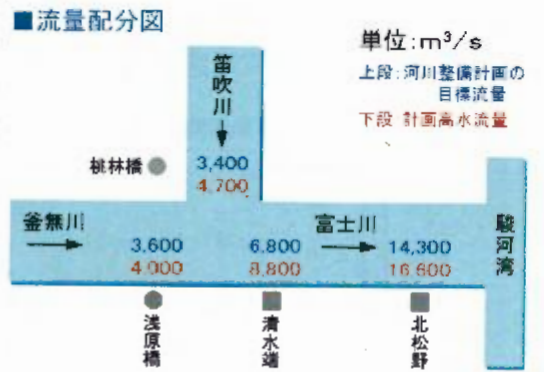
河川事業

富士川は長野・山梨・静岡の3県にまたがる流域面積が3,990km²、幹線流路延長が128kmの一級河川で、甲府河川国道事務所が管理する延長は、富士川及び釜無川、笛吹川等を合わせて約122kmです。

安全で豊かな国土基盤づくりに向けた富士川の河川改修は、富士川水系河川整備基本方針(平成15年2月策定、計画高水流量：清水端8,800m³/s、北松野16,600m³/s)に基づき、所要の治水施設を整備します。

さらに、段階的な整備を推進するため、富士川水系河川整備計画(平成18年9月策定、整備計画目標流量：清水端6,800m³/s、北松野14,300m³/s)に基づき、戦後最大規模の洪水を安全に流下させる治水施設等を整備します。

また、良好で快適な水辺環境を保全・整備するとともに、適正な河川利用がなされるための維持修繕やその他の管理及び水防警報並びに气象台と共同して洪水予報を実施します。

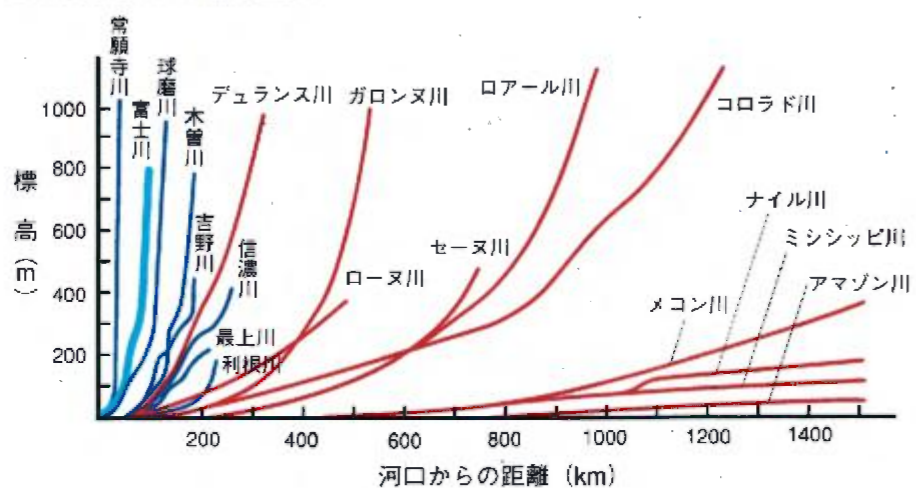


富士川の特徴

◆日本三大急流◆

富士川は、最上川、球磨川と並び、日本三大急流の一つに数えられ、増水時には激流となって流れます。

○日本と外国の河川縦断面曲線



昭和57年8月洪水(台風10号)



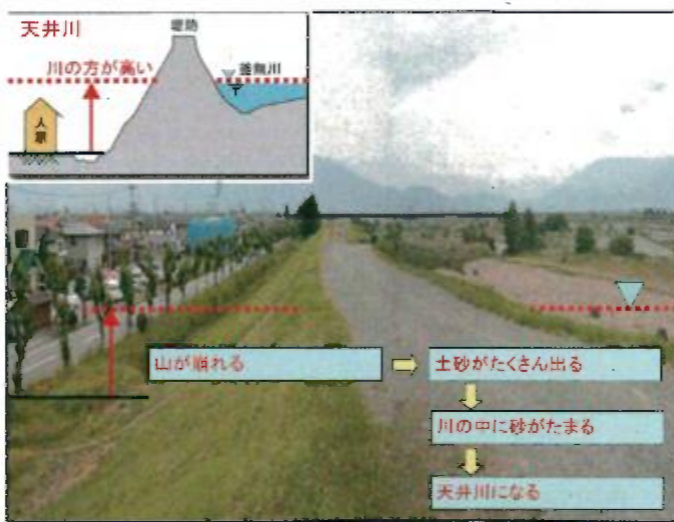
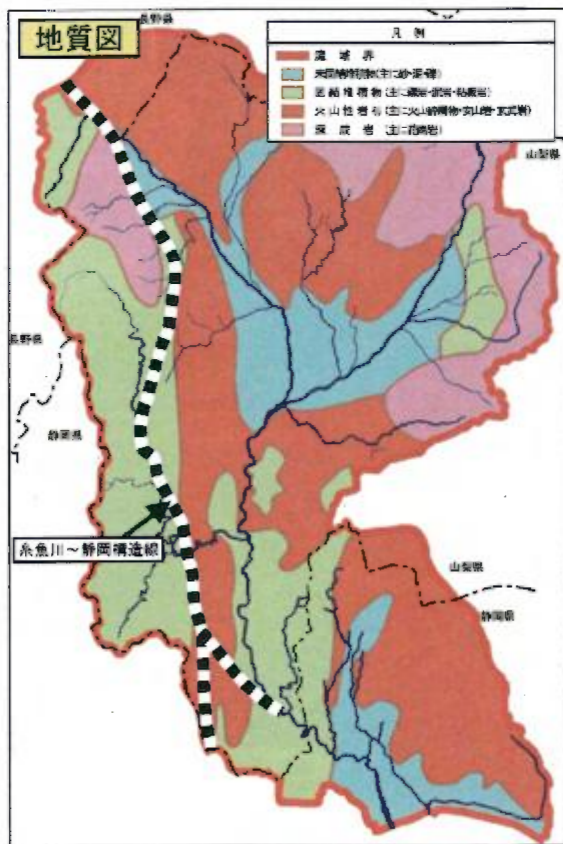
▲甲斐市「旧電王町」信玄堤
(信玄堤上流高速濁流、釜無川左岸)



▲橋脚と橋の流失
(旧国鉄東海道線橋)

◆土砂流出が莫大◆

流域内を糸魚川・静岡構造線が縦断しており、崩壊しやすい地質となっています。このため、増水時には大量の土砂が流れ出て、洪水氾濫の要因となるなど河川管理上、重大な課題となっています。また、土砂が河川内に堆積することにより、河床が高くなる天井川となっています。



▲天井川(釜無川)



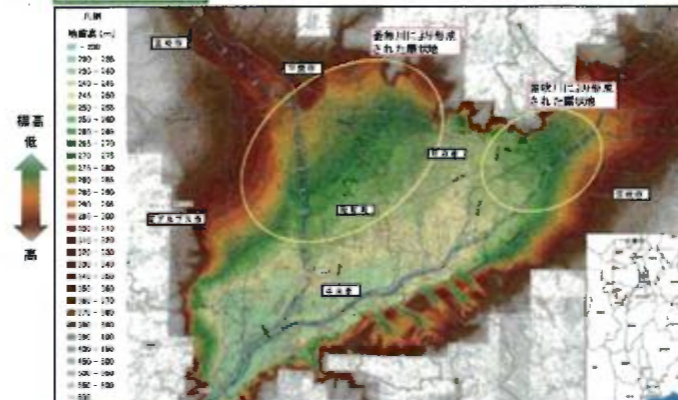
▲昭和57年8月洪水(台風10号)により大量の土砂流出

富士川の特徴

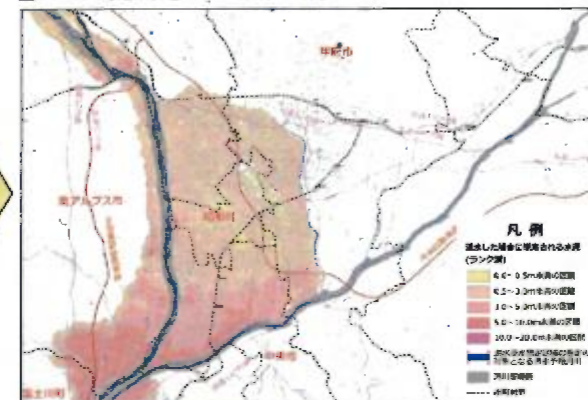
◆一度氾濫すると甚大な被害◆

甲府盆地、富士平野は釜無川、笛吹川、富士川の扇状地となっており、一度氾濫すると大量の土砂や巨石を含んだ濁流が高速流となって流れ出て、壊滅的な被害をもたらします。

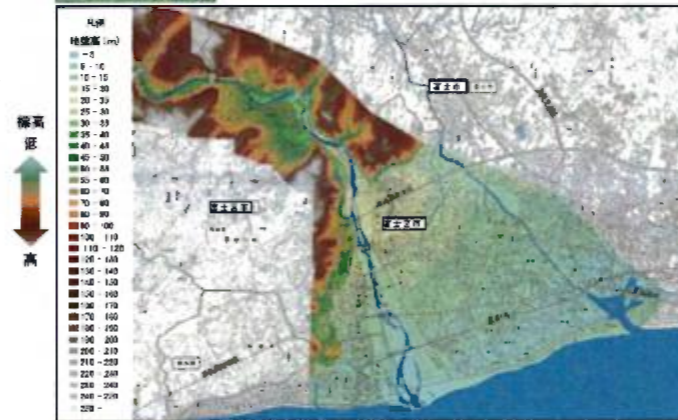
甲府盆地の地形



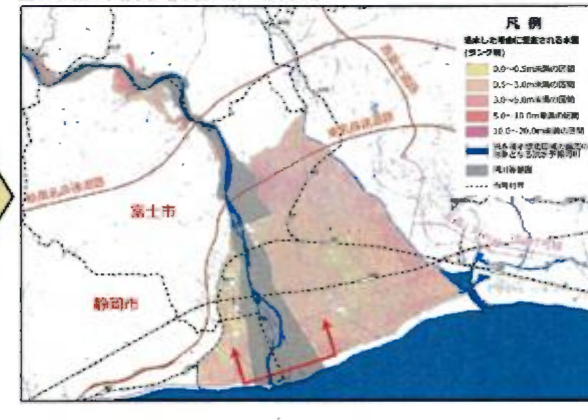
釜無川洪水浸水想定区域と浸水深



富士平野の地形



富士川洪水浸水想定区域と浸水深



昭和34年災害



▲笛吹川三都東橋(市川三郷町)



▲武川村三吹地区(新開地)土石流がきた後の武川村中心街と、立ちすくむ住民

◆安全で安心な街づくり◆

洪水時の河川流量を安全に流下させ氾濫などの洪水被害を防ぎ、安全で安心な街づくりを目指して事業を実施します。

- 洪水被害や浸水被害の解消を目的とした築堤や護岸、洪水・地震等の災害時における復旧活動の拠点となる河川防災ステーションの整備を実施します。
- 堤防除草や河川巡視による点検などを行い安全な河川を維持するために日々管理に万全を期します。
- 平成28年8月29日に策定された「富士川流域の減災に係る取組方針」に従い、沿川自治体、県、国が一体となってハード・ソフト対策を推進します。
- 平成29年3月21日に公表された想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図に基づき、自治体が改訂するハザードマップの検討を支援します。

富士川 切石・手打沢地区築堤

◆事業の概要◆

身延町切石・手打沢地区は、身延町役場があり、災害時には町の中核機能として重要な箇所ですが、昭和34年洪水、昭和57年洪水では堤防が無い、或いは低い箇所の為、浸水被害が発生しました。

このため、築堤護岸整備を実施し、浸水被害の解消を図ります。

◆事業の効果◆

無堤防地区の築堤護岸等を整備し、戦後最大降雨(昭和57年洪水)による浸水被害の解消を図ります。

◆2019年度の予定◆

切石地区の用地の取得を実施します。

◆概要図等◆



富士川 木島地区河川防災ステーション

◆事業の概要◆

富士川下流部は人口、資産が集中する加島平野を抱えるとともに、東名高速道路や東海道新幹線等の東西日本を結ぶ大動脈が存在するため、ひとたび氾濫すれば甚大な被害が生じる恐れがあります。また、当地区は南海トラフ巨大地震による被害も懸念されています。

このため、氾濫時や大規模災害時において迅速な復旧活動を行うための河川防災ステーションを整備します。

◆事業の効果◆

河川防災ステーションを整備することにより、大規模災害時において、迅速な復旧活動の拠点となります。

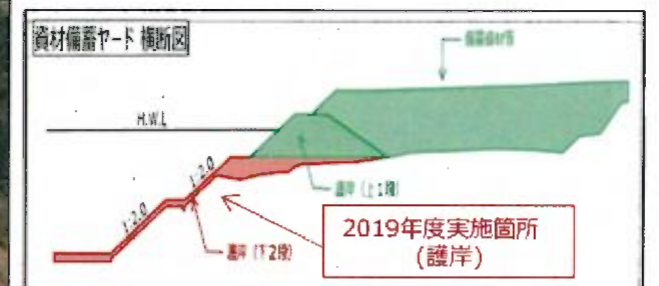
◆2019年度の予定◆

資材備蓄ヤードの護岸の整備を実施します。

◆概要図等◆



災害時においては、被災箇所の迅速かつ円滑な復旧活動を行うための資機材提供を行う拠点となります。



ふえ ふき かわ ふえ ふき いさわ
笛吹川 笛吹石和地区水辺環境整備

◆事業の概要◆

現在、笛吹川の石和地区の下流においては、サイクリング、散策等の日常的な利用や川中島合戦戦国絵巻、花火大会、体験型鶴匠等のイベントなど、様々な河川利用がなされています。

笛吹市における「笛吹市ミズベリング構想」では、笛吹川の石和地区、石和温泉街等の周辺地域も含めて一体的に整備を行うことにより、市民の憩いの場、観光資源として更に魅力的なまちづくりを目指しています。

本事業では、「笛吹市ミズベリング構想」を踏まえ、「笛吹市かわまちづくり」計画に基づき、河川利用上の安全安心を確保した上で水辺の活用を行うことができるよう親水護岸を整備し、河川空間の利用促進による地域活性化を図ります。

◆事業の効果◆

笛吹市の「かわまちづくり」と連携して親水護岸の整備を実施し、河川空間の利用促進により地域活性化に寄与します。

◆2019年度の予定◆

モニタリングを実施します。

◆概要図等◆



防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策

◆事業の概要◆

平成30年7月豪雨等の近年の災害を踏まえ実施した重要インフラの緊急点検結果に基づき、洪水時の危険性に関する緊急対策として、緊急的に樹木伐採等を実施し、早期に地域の安全性の向上を図ります。

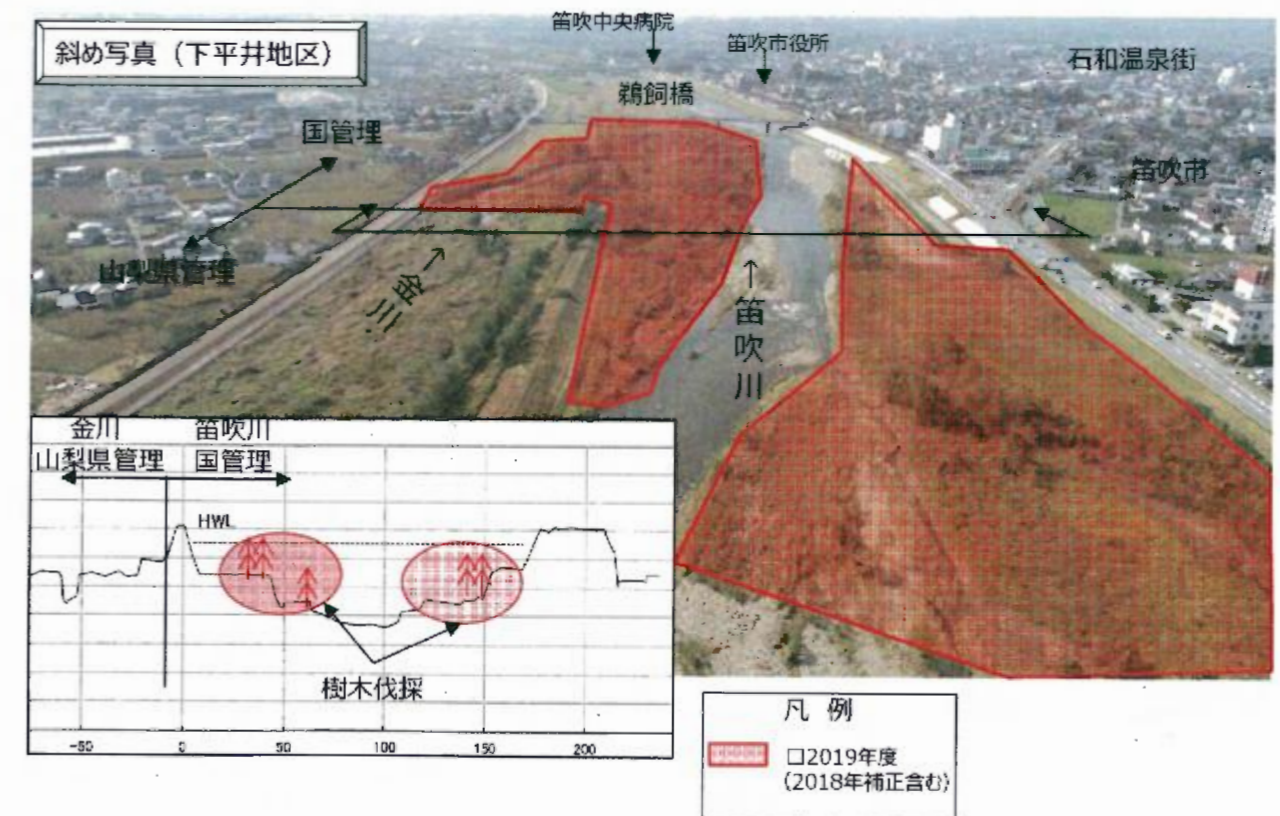
◆実施内容◆

- 迅速な避難につながる河川情報の提供
 災害の切迫状況等を伝える簡易型河川監視カメラ等の設置
- 水害・土砂災害から命を守るインフラの強化
 氾濫による危険性が特に高い等の区間において、樹木・堆積土砂等に起因した氾濫危険性解消を実施
- 災害時にインフラの機能を維持するための電源確保
 電力供給が停止した際にもインフラの機能を維持できるよう観測所等の停電対策の実施
- データの確実な提供・活用のための機能強化
 災害時でも運用を継続し、データを安定的に提供する為、観測所等の機能確保のための防水・浸水対策

◆2019年度の予定◆

下平井地区などの樹木伐採を行います。

◆概要図等◆



維持管理

◆事業の概要◆

富士川は、長野・山梨・静岡の3県にまたがる、流域面積が3,990km²、幹線流路延長が128.0kmの一級河川で、そのうち甲府河川国道事務所が管理する延長は、富士川、釜無川、及び笛吹川等合わせて約122kmです。

沿川住民が安心して生活でき、多くの人々から親しまれる河川とするために堤防、護岸、河川構造物等の河川管理施設の維持・管理や堤防除草、河川巡視や定期的な点検等を実施しています。

◆2019年度の予定◆

○日常管理

- ・堤防、護岸や排水機場等の河川管理施設の点検を行います。点検により、変状が確認された際には、補修等を行います。
- ・堤防の状態を点検・把握するために堤防除草を実施します。
- ・川の機能が正常に保たれているか、また堤防や樋管などに変状がないかなど、管内の河川巡視を実施します。



▲堤防点検



▲河川管理施設の点検



▲堤防除草



▲河川巡視

○緊急時の対応

- ・洪水や地震が発生した場合は、堤防、護岸、樋門、及び排水機場などの状況を確認し、被災に対して迅速に対応します。



・平成29年台風21号の出水の影響により河岸侵食が発生。
(身延町西嶋地先)



・被災後すぐに台風の接近が予想されたため、緊急対応として根固めブロックの設置を実施。

○河川の機能を維持するための工事

- ・洪水時において安全な流れの阻害となったり、河川の状況把握に支障となる河川内に繁茂した樹木の伐採を行います。



・河道内に著しく繁茂した樹木により、洪水時に水が流れにくくなります。また、河川の状況把握が出来なくなります。



・樹木伐採により、洪水を安全に流下させます。また、河川の状況把握が容易に出来ます。

富士川水系における水位情報の提供

◆事業の概要◆

- ・富士川水系においては、平成27年度より河川水位の概況を迅速かつ簡便に把握するための危機管理型水位計を設置し、直轄河川管理区間における氾濫危険箇所の監視や自治体への避難判断の支援等を進めてきました。
- ・平成30年度には、新たに45箇所に同様の水位計を設置し、氾濫危険箇所の監視を強化しました。

◆事業の効果◆

- ・直轄河川管理区間における氾濫危険箇所の水位把握が容易になり、迅速な対応が可能となります。
- ・浸水リスク箇所や内水氾濫箇所への設置により、自治体の迅速な避難勧告等の判断・発令に寄与します。
- ・水位観測結果の情報提供による減災効果(自助・共助)が期待されます。

◆富士川水系情報提供システム◆

水位情報の提供

危機管理型水位計の情報は、『川の水位情報』や『富士川水系情報提供システム』でご覧になることができます。

【川の水位情報】

URL : <https://k.river.go.jp/>

- ・川の水位情報では、危機管理型水位計、通常水位計、河川カメラが同一画面に表示されます。
- ・リアルタイムの河川水位に対応して色が変化し、危険度がわかります。



【富士川水系情報提供システム】

URL : <http://kofu-river-bosai.ktr.mlit.go.jp/>

- ・富士川情報提供システムでは、一部の危機管理型水位計の情報をご覧になれます。
- ・このほか、富士川の水位や雨量、ライブカメラなどのリアルタイムの状況や浸水リスク情報を確認することができます。



調査

◆河川調査◆

雨量・水位・流量観測や水質調査、また、洪水時の河床変動調査や河川水辺の国勢調査など、富士川の整備計画のフォローアップ、河川改修事業および河川管理の基礎資料を得るためにさまざまな調査を行っています。

- 雨量観測、水位観測・流量観測及び水質調査、河床材料調査
- 洪水による河床変動の調査



▲流量観測



▲水質調査

◆水辺の国勢調査◆

国土交通省では、全国の一級水系の河川において「環境」という観点からとらえた基礎情報の収集整備を目的とする「河川水辺の国勢調査」を実施しています。調査は、動物や植物に関する6つの生物調査と、河道内の陸域における植生分布状況及び水域における瀬・淵や水際部の状況等を調査する河川環境基図作成調査、河川空間の利用実態を調査する河川空間利用実態調査の計8項目にわけて実施しています。今年度は、陸上昆虫類調査を実施します。



▲生物調査

◆減災への取組◆

富士川水系では、平成29年3月21日に想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を公表しました。今後は、自治体によるハザードマップの改訂を支援します。また、現存する霞堤の機能評価と機能保全に向けた検討を行います。



▲釜無川

水辺のにぎわい創出

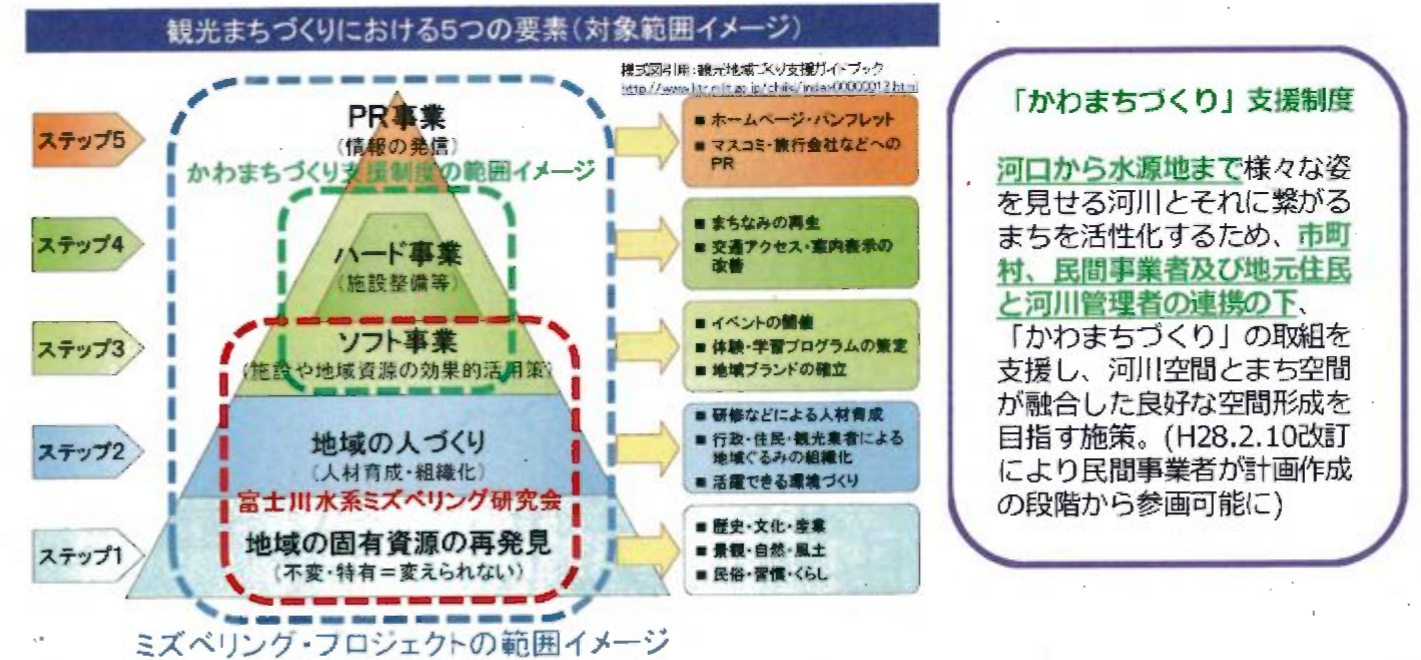
◆富士川水系ミズベリングプロジェクト◆

ミズベリングプロジェクトとは

水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを生み出すムーブメントを、つぎつぎと起こしていく取り組みです。

- (1)まちにある川や水辺空間の賢い利用
- (2)民間企業等の民間活力の積極的な参画
- (3)市民や企業を巻き込んだソーシャルデザイン

の3つを基本コンセプトとし、水辺とまちの未来のかたちをデザインし、「つくる」だけでなく「育てる」ことを視野に入れた持続可能な未来を創造していくための取り組みを推進していきます。

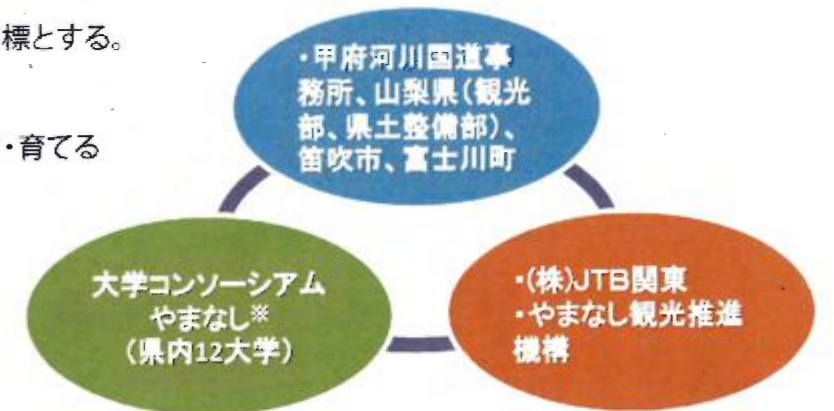


◆富士川水系ミズベリング研究会◆

1. 研究会の目的
富士川水系の水辺とまちの未来を創造していくための取り組みを推進していくミズベリングに関する情報を関係者で共有し、産官学との連携のあり方と人材活用方策について調査・研究を行う。

2. 研究会の目標
研究会は、次項を達成することを基本目標とする。
- ①水辺を楽しむ人を増す・育てる
 - ②水辺で街を変える人を増す・育てる
 - ③水辺で新しいビジネスを作る人を増す・育てる

3. 研究会の構成
ミズベリングに関心をもって取り組む産学官の機関・団体等によって構成。大学コンソーシアムやまなし※と甲府河川国道事務所で共同設置(平成27年3月3日設立)。



※大学コンソーシアムやまなし
大学間相互の連携による多様な交流機会の提供、教育・研究の相互補完・向上と成果の還元、全国への情報発信に関する事業を行い、大学及び短期大学の特色ある発展を支援するとともに、地域の活力向上と地域経済の活性化に寄与することを目的として設立。